

中川人形保存会

二子玉川国民学校疎開児童帰京80周年
中川人形保存会特別公演

令和7年11月2日(日)

中川文化センター大ホール

開場 9:00 開演 9:30

入場無料



にほんさんばそう
二人三番叟

けいせいあわのなると
傾城阿波鳴門
順礼歌の段
(中川西小人形クラブ合同)

ひだかがわいりあいざくら
日高川入相花王
渡し場の段



共 催

中川人形保存会
二子玉川小・中川西小交流協議会
中川村公民館

お問い合わせ

090-9354-2164
(保存会事務局 齋藤)
0265-88-1005
(中川村公民館)

長野県地域発元気づくり支援金活用事業

二子玉川国民学校疎開児童帰京80周年記念事業について

本年は終戦80年、二子玉川国民学校の学童疎開児童が帰京してから80年の節目にあたります。学童疎開の当事者やその家族がご高齢の域となる中、本年は10年前の「学童疎開児童70周年事業」を上回る記念の集いを計画し、平和への思いを新たにしつつ、両校と両地域の交流の新たな発展を期したいと考えております。

この事業は昨年度から「長野県地域発元気づくり支援金活用事業」として承認を受け、本年は「学童疎開を起点とした都市と農村の文化交流および教育連携事業」をテーマに事業を進めております。

(二子玉川小・中川西小交流協議会)

ににんさんばそう

『二人三番叟』

三番叟は天下太平、五穀豊穡を祈願する能の「翁」を、特に三番叟の部分に重点をおいて、義太夫に取り入れられたご祝儀曲です。田植えや種まきなどの農耕に由来する動きを賑やかな曲によって軽快に踊ります。途中で疲れて休む等ユーモラスな場面もあります。



けいせいあわのなると

じゅんれいうたのだん

『傾城阿波鳴門 順礼歌の段』

十郎兵衛と妻のお弓は、徳島に娘のお鶴を残し盗賊の仲間になって盗まれた主君の刀を探しています。ある日お弓が針仕事をしていると、順礼をしながら両親を探しているという女の子が門口に立ちました。国なまり(方言)が気に入り「国はどちら？」と尋ねると、「阿波の徳島で、父の名は十郎兵衛、母はお弓と申します」との答え。女の子は国許の祖母に預けた娘「お鶴」でした。すぐにでも母だと名乗り抱きしめたいお弓でしたが、今は役人に追われる盗賊の身。ここで親子だと名乗ればお鶴も捕らえられてしまうかもしれないと、「国で親の帰りを待ったほうがよい」とさとしします。お鶴は、国での悲しい出来事や順礼中に怖かったことなどを訴え、「なにやら母様のように思われる。ここに置いてください。」と頼みます。しかしお弓は心を鬼にして、お鶴に旅のお金を渡して無理に返してしまいます。泣く泣く遠ざかっていくお鶴を見送って泣き崩れたお弓は、「今別れてはまた会うことはならぬ」と思い直し、後を追っていくのでした。

ひだかがわいりあいざくら

わたしばのだん

『日高川入相花王 渡し場の段』

朱雀天皇の弟・桜木親王は皇位を巡って命を狙われ、「安珍」という山伏に姿を変えて、紀州の真名古庄司の元に身を寄せました。そこの一人娘「清姫」は、かつて見初めた男である安珍に恋心を募らせますが、親王には小田巻姫という恋人がいました。偶然、真名古の館で巡り合った親王と小田巻姫は道成寺へ逃げていきます。安珍を追って日高川にやってきた清姫は、渡し守に船を出すよう頼みますが、お金をもらって「娘を渡さないよう」頼まれている渡し守は、冷たくあしらいます。安珍に恋焦がれた清姫は嫉妬に狂い、川へ飛び込むと大蛇に姿を変え日高川を渡っていくのでした。

大きく口の開く「がぶ」という特殊な首(かしら)が使われるのも見どころです。

